

長く、安心して住み続けられる山口市を目指して 安心・安全に暮らせるまちってどんなまち？

令和5年 第3回山口市議会定例会 質問と答弁

「ゾーン30プラス」の 指定について

▶質問

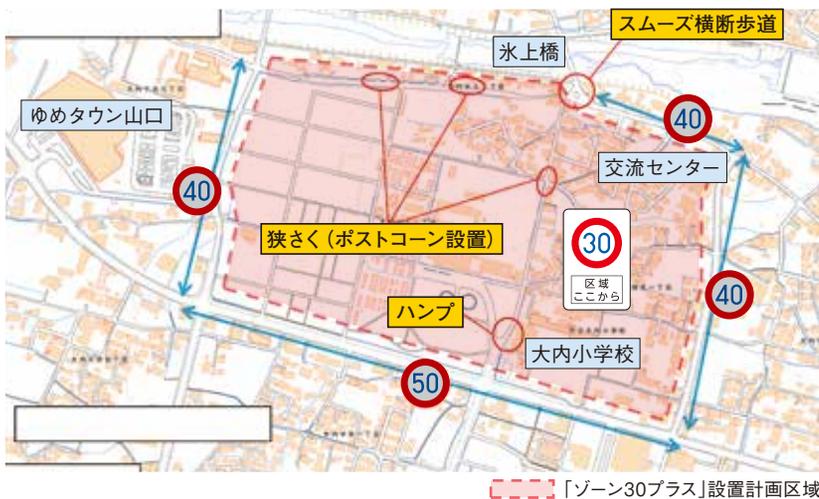
生活道路の交通安全対策の一つとして進めている「ゾーン30」について、市道の道路管理者として取り組まれていることがあれば伺う。

▶答弁

「ゾーン30」については、住宅街の道路が、朝夕の通勤・通学のラッシュ時に多くみられる幹線道路からの抜け道となることで、地域の生活道路の安全が脅かされるといった問題に対し、警察において「ゾーン30」として区域を定め、速度規制や通行規制を実施されている。本市においては、平成25年度に「大殿地域」での「ゾーン30」の指定を皮切りに、以降「白石、小郡、大蔵、大内、吉敷、秋穂、平川」の8つの地域においても区域の指定がなされている。警察をはじめ、地域の皆様、学校関係者の皆様などとも協議しながら、注意を促すための路面標示や道路反射鏡の設置等、交通安全施設の整備、維持管理を行っている。

▶質問

「ゾーン30」の指定区域が、現在、市内に8地域あるということだが、新たな区域指定に向けた動きがあるか伺う。



警察がエリアを決めて行う
最高速度30km/h
規制「ゾーン30」



+

道路管理者が
行う物理的
デバイスの
設置



= ゾーン30
プラス



看板

〈ゾーン30プラスの入口(岐阜県各務原市の例)〉

路面表示



▶答弁

新たに仁保川の左岸、農業試験場跡地から大内地域交流センター周辺にかけての、大内小学校を中心とした範囲について「ゾーン30」の指定に向けた準備を警察で進められている。大内地域でのこの新たな区域指定については、従前の「ゾーン30」における速度規制等のソフト面での取組に加えて、「ゾーン30プラス」という、車道を若干狭める「狭さく」や、少し段差を設ける「ハンプ」といったハード対策も併せて行う新たに創設された取組での区域指定も予定されている。道路管理者としては、「狭さく」や「ハンプ」といった、ハード整備を行うので、具体的な整備内容について警察と協議を進めている。



【物理的デバイスの例1】
ポストコーンで車道を若干狭めた「狭さく」→速度抑制と歩行者を保護



【物理的デバイスの例2】
ハンプと横断歩道を組み合わせた「スムーズ横断歩道」→速度抑制、子どもの視認性を向上

▶質問

大内での新たな「ゾーン30プラス」の指定時期としては、いつ頃になる見込みか伺う。

▶答弁

大内での「ゾーン30プラス」の指定に当たり、警察では、対象地域周辺の町内会を対象とした説明会を令和5年10月5日に実施しており、指定時期については現時点での情報によると令和6年4月を予定している。

「住み続けられるまちづくり」は世界共通の目標

9月定例議会では、「安心・安全」の視点を中心に議論をいたしました。災害等によって気づかされることが多い「安心・安全」ですが、普段から考えておくべき大事なまちのテーマです。SDGs(世界が目指す持続可能な開発目標)でも、目標11に「住み続けられるまちづくりを」が掲げられています。世界的な目標でもある、安心して住み続けられるまち。ここ山口でこれからも皆さんと一緒に議論し、考えていきたいと思っております。

雨水管理総合計画策定の進捗状況と今後の予定について

▶質問

今年度から着手する雨水管理総合計画策定の進捗状況と今後のスケジュール及び詳細な内容について伺う。

▶答弁

雨水管理総合計画は、浸水リスクを評価し、優先度の高い地域を中心とした対策を推進することを目的として策定するもので、今年度は予定通り4月下旬に計画策定に向けた基礎調査業務を発注した。基礎調査は、平成21年や平成25年などに発生した浸水被害の状況に加え、この度の豪雨による被害状況も反映し、床上・床下浸水被害の実績、降雨の記録、河川の水位、地形などのデータを収集し、地域ごとの概況を整理する。令和6、7年度の2箇年で浸水要因分析及各地域の課題、対策目標を整理し、地区ごとの浸水リスクに応じた整備目標を設定する。最終的に令和8年度中に計画を策定し、令和9年度から、この計画に基づいて、段階に応じたハード、ソフトの対策を進めていくこととしている。

▶議会での主張

浸水被害が連続して発生している地域については、喫緊の課題として早急に対策に着手されることを要望する。

山口県農業試験場跡地における浸水対策について

▶質問

現状の土地利用の規模や形態が大きく転換されることになる場合もあることから、敷地内における浸水対策について、雨水貯留施設については重要な選択肢の一つであると考えている。現在、県との協議においてどのような方向性で検討されているのか伺う。

▶答弁

山口県農業試験場跡地利用基本計画の策定に向け、専門的な知見を有するコンサルタントへ県が業務委託を行い、現在、基本計画の策定支援に係る業務の中で、雨水排水対策や渋滞対策などの諸課題への対応について、調査を進めている。県と本市それぞれの関係部署の実務者レベルにおいて、雨水排水対策などの諸課題への対応や、今後検討していくこととなる事項について、適宜協議調整を行い、その方向性について共有を図っており、これらを踏まえ、引き続き農業試験場等跡地利用検討協議会において、具体的な協議を重ねていく。雨水貯留槽施設については、跡地利用の雨水対策として有効な手段の一つと考えており、グリーンインフラの導入や遊水池の整備など、様々な手法を含め、具体的な対策の一つとして検討していく必要があると考えている。



【イメージ写真】建設中の赤妻2号雨水貯留施設の様子(令和3年度完成)

▶議会での主張

周辺の水路などに影響を及ぼすことのないよう、敷地内における浸水対策など、課題解決に取り組むことを要望する。

地域政党 やまぐちの風は、市民の皆様の声を大事にすることを第一の信条として活動していることから、市議会での議論について、自身が撮影した画像等と併せて、定例会ごとにわかりやすくお伝えしていくためにつくっているのがこの会報です。是非、ご覧いただき、お気軽にご意見等をお寄せいただければ幸いです。

山口市市民会館について



▶質問

市民会館の老朽化に伴う現状の課題について、どのように認識されているのか伺う。

▶答弁

市民会館にあるべき機能を整理いたし、施設を機能更新とするのか、あるいは、建て替え整備を行うのかといった方向性を決定できるよう協議、検討を進めていきたいと考えている。

▶質問

山口の音楽文化の水準の高さをどのように認識されているのか伺う。

▶答弁

本市では若い世代だけでなく、社会人の方々が参加される音楽団体も活発に活動しておられ、市民の皆様が音楽に触れ、参加する機会が充実していることも、本市の文化水準の高さにつながっていると実感している。

▶質問

部活動の地域移行を契機とした地域の文化振興の活性化に伴う、活動拠点としての市民会館の役割について考えを伺う。

▶答弁

市民会館を生徒の文化芸術活動の育成支援に生かしていく活動の場の一つとして検討することも大切な視点であると認識している。

▶質問

市民会館とKDDI維新ホールの違いと、異なる特徴を踏まえた文化振興や交流人口の拡大に資する市民会館の今後の方向性について伺う。

▶答弁

KDDI維新ホールは、小郡都市核における拠点施設として、ビジネス街の形成に向けて産業支援と交流の拡大を目的に設置した施設である。一方、市民会館は、市民の皆様が文化の向上及び福祉の増進を目的とする施設で、フルオーケストラの演奏などにも対応する設備を備え、幅広いジャンルの音楽や演劇、講演会等、様々な分野に対応可能なホールであると捉えている。今後も本市の多様な文化芸術活動の交流拠点としての役割を担える施設として運営できるよう努めていく。

▶質問

山口都市核の亀山周辺ゾーンにおいて市民会館はなくてはならない文教施設と考えているがご所見を伺う。

▶答弁

「山口市都市核づくりビジョン」におけるまちづくりを進めていく上で、市民会館は亀山周辺ゾーンにおける重要な都市機能の一つであると認識している。

▶議会での主張

山口市市民会館において山口ジュニアオーケストラ育成支援事業に取り組んで欲しい。実現できれば学校部活動の地域移行のモデルプランになると認識している。



山口ジュニアオーケストラと少年少女合唱団

